

## 2016年度成蹊大学法科大学院第2期入学試験 憲法

### 【問題1】（配点：40点）

以下の問いにそれぞれ10行以内で答えよ。

- (1) 経済的自由の制約に対する「規制目的二分論」について、それを確立したとされる最高裁判所判決の内容も含めて簡潔に説明せよ。さらに、この理論の妥当性が揺らいでいるとの主張があるが、その主張についても説明せよ。
- (2) 信教にもとづく行為が刑法上の問題になった事件について、その行為が憲法上正当なものとして刑法上の罪とならなかった事例と、逆に正当性が認められず有罪となった事例とについて、それぞれ判例に触れたうえで、説明せよ。

### 【問題2】（配点：60点）

以下の文章を読んで、設問に答えよ。

大手新聞社に勤務する政治記者Aは、外交に関わる重要な政治問題を長年追っていた。Aは、当該問題に関して政府間での極秘の合意があるという情報を掴み、自身の長期にわたる取材活動等により、その情報がほぼ真実であるという心証を得た。しかし、その情報を裏付ける決定的な証拠が不足していることに加えて、問題が政府極秘事項であるためAの証拠探しの取材活動は困難を極めた。ところで、Aには、10年来同棲している女性Bがいたが、国家公務員であるBは、Aの必要とする証拠を「職務上知ることのできた秘密」として入手できる状態にあった。

ある日、Aが仕事から深夜帰宅すると、Aの書斎（Bと共用）の机の上に茶封筒が置かれており、何気なく開いたその中身は、まさにAが喉から手が出るほど欲していた「秘密文書」であった。Aは、急ぎ、その文書をコピーし慎重に保管した上で、文書を元に戻した。文書の出处について大体的見当はついたが、それについては一切他言せず、Bともそのことについては一言も言葉を交わさなかった。

Aは、この秘密文書の効果的な公表方法について思案した挙句、知人の野党国会議員Yに国会質疑の際に大々的に政府に対して質問させるという手段をとった。この国会質疑の結果は予想外に甚大なものとなり、かかる秘密文書の存在を知った国民間で政府に対する批判が噴出し、政府の支持率が劇的に低下した。また、政府与党との協調路線を模索していたYの所属政党Xは、YのスタンドプレーがXの政策に反したとしてYを除名した。さらに、Yが居住していたX政党员のみが利用できるX保有の家屋の明け渡しを求める民事訴訟が、Yを被告としてXより提起された。それに対しYは、除名処分自体が違法・無効であるとして争った。その際、Yは自身の国会での質疑が国民の利益に資する正当なものであると主張して、Aを証人として出頭させることを要求した。

〔設問〕

- (1) 本件訴訟での証人尋問において、Aは、本件秘密文書の入手先を問われたが、証言を拒絶した。ここでの「報道の自由における取材源の秘匿」について、憲法の観点から説明せよ。
- (2) 本件では、憲法上の論点として「政党の内部自治と司法審査」が問題となりうる。そのことについて説明せよ。